

一般社団法人

外国人雇用協議会

The Japan Association for the Employment of Foreign Nationals

日本から
新共生社会を作る

Special talk

「次世代日本人」への思い、引き継ぐ
—— 初代会長の堺屋太一を語る

contents

会員社アンケート
「数字でみる！会員企業について」他

設立

10周年
記念誌

2026年6月発行

日本から新共生社会をつくる

外国人雇用協議会は
日本の言語・文化・ビジネス習慣に通じた質の高い外国人が、
日本のビジネス社会で最大限に活躍できる環境を整えるため、
2016年4月に設立されました。

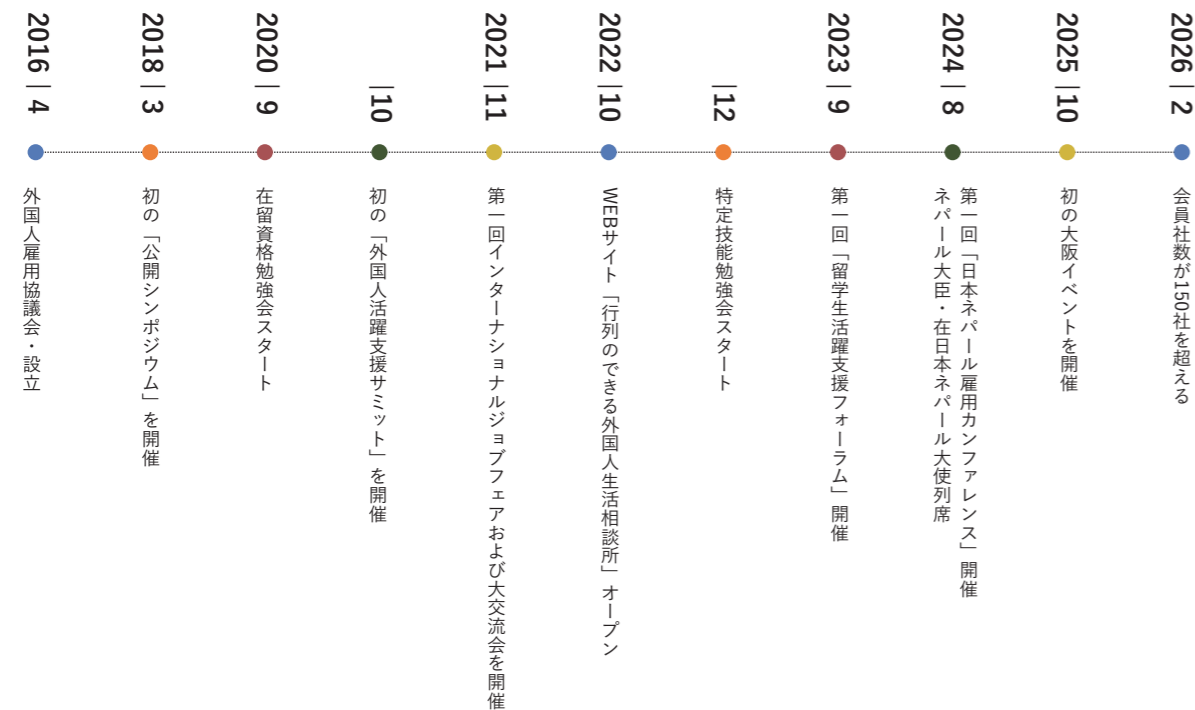
初代会長の故・堺屋太一は「既存の何かを脅かすことが移民受入ではない。
大量の移民を受入れ、教育提供、異文化共有を行い文化融合を遂げてきた。
そこから次世代が誕生。
”次世代日本人”を生み出してきたのである。」と語って*います。

私たちはこの想いを受け継ぎながら、
急速に変化する社会情勢の中で、議論を重ね、
民間団体として活動を続けてまいりました。

本冊子では10周年を記念して
対談特集「次世代日本人」への想いを引き継ぐ —— 初代会長 堺屋太一を語る
を中心に、
私たちの想いと足跡をご紹介します。

*故堺屋太一氏インタビュー記事日経ビジネスオンライン「日本は移民を受け入れたことがないは間違い」より一部抜粋

外国人雇用協議会のあゆみ

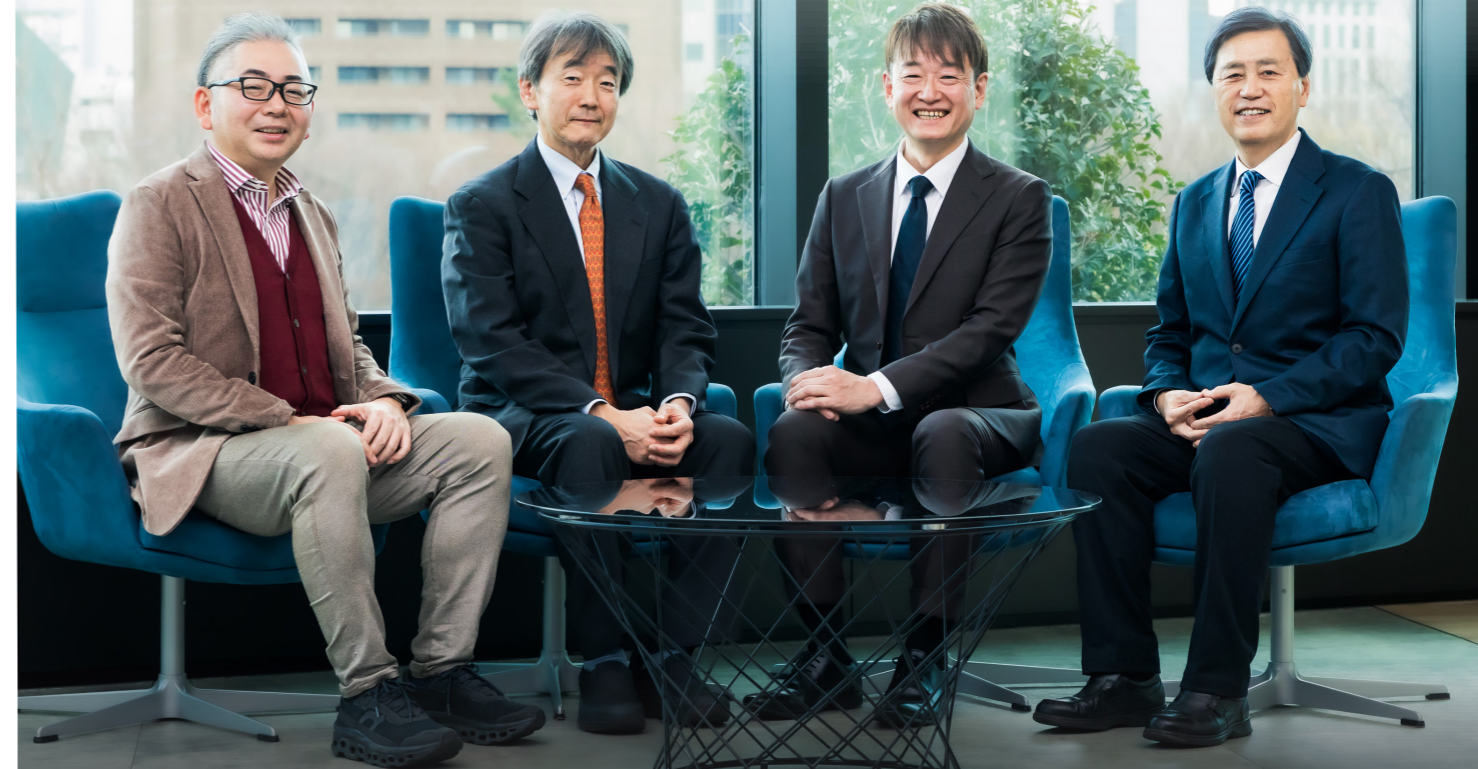


他、多数の政策提言・イベント・意見交換会等を実施して参りました

Special talk

「次世代日本人」への想いを引き継ぐ —— 初代会長 堺屋太一を語る

外国人雇用協議会の原点は、初代会長・堺屋太一の強い問題意識だった。作家、官僚、政策アドバイザーとして戦後日本を形づくってきた堺屋氏はなぜ外国人雇用というテーマに深く関わったのか。その人物像と思想、若い世代に託されたミッションについて語り合った。



後藤 裕幸（ごとう ひろゆき）理事
株式会社グローバルトラストネットワークス代表取締役社長。外国人専門の生活総合支援事業を展開し、家賃保証や通信インフラ等を提供。在留外国人の生活環境整備の第一人者。

原 英史（はら えいじ）代表理事
株式会社政策工房代表取締役社長。元通産・経産官僚。大阪府・市特別顧問、政府の規制改革推進会議委員等を歴任し、規制改革の旗振り役として活躍。

竹内 幸一（たけうち こういち）理事
株式会社グローバルパワー代表取締役社長。高度外国人材向け求人サイトNINJAの運営を中心に外国人材の就職支援に長年従事。

毛受 敏浩（めんじゅとしひろ）顧問
関西国際大学客員教授。共生社会のあり方について社会啓発を含め多面的な活動等を行う。新著「移民1000万人時代 2040年の日本の姿」を2026年1月に出版。

有名作家で官僚、伝説の人

後藤裕幸：外国人雇用協議会ができて10周年ということで、この会の創業者である初代会長、堺屋太一について創立メンバーの3人に話っていたらいいと思います。
竹内幸一：たぶん常に50年後、100年後を見据えていた方でした。そもそも関西で生まれて戦時中に育って、7年前の2019年2月に83歳で亡くなったので、ご健在だったらちよと90歳ですね。東大を卒業して通産省（現・経済産業省）に入ってあらゆることをやりました。1970年大阪万博のプロデューサーで、万博をやるうって言い出したのも堺屋さんです。あと、吉田茂から沖縄を観光圏にしてくれと言われて、南沙織さんをテレビCMで使って沖縄に観光客を集めたり「巨人・大鵬・卵焼き」という流行語を作ったりしたのも堺屋さん。「団塊の世代」という言葉を作ったのも、竹中直人さんが主演した大河ドラマ『秀吉』の原作者も堺屋さんです。亡くなる直前に会いに行きました。亡くなったのが2月でしたが、前年の11月に外国人雇用協議会の主催で堺屋さんの講演会をやらせてもらえないかというお願いをしに行きました。そのときも堺屋さんはワクワクしていらっやっや。少年のようにソワソワされているからどうしたんですかと聞いたら（2回目の）大阪万博がもうすぐ決まるんだよねと言っていたのを覚えています。
原英史：私にとって堺屋さんは通産省の先輩です。『油断』といった本を書いて、どんどんすごい人になっていきました。僕よりちょっと上の世代と一緒に働いた人たちに残っている記憶というのは、堺屋さんは夕方まで出てこない。夜はずっと本を書いていて夕方になって出勤してくるらしいのです。そのときはすでに有名作家ですからね。夕方になって政治家のところに行くとちよと行って、こういうことですよって言うというん物事が全て片づく。そういうすごい人でした。大阪万博もそうだし、沖縄もそうだし、エネルギー政策でも今言う太陽光発電に最初に取り組んだのが彼なんです。色んな政策を全て実現した伝説的な人ですね。

人口問題がライフワーク

後藤：毛受さんから見て堺屋さんってどんな方ですか？
毛受敏浩：多分、堺屋さんのことを知ったのは大学生の頃だと思います。私は大阪出身で、作家の小松左京さんが好きだったんです。小松左京さんと堺屋太一さんが大阪万博の仕掛け人でした。高度成長期で、世の中がどんどん開けて、国際化して、世界から人が来てすぐ前向きな時代でした。それを演出した方というイメージです。私から見たら雲の上の人でしたが、協議会で直接2回ぐらいお会いする機会がありました。非常に温厚で、それからやはり外国人に対してもの情熱を傾けていて。堺屋さんは「団塊の世代」という言葉を作った人で、その団塊の世代という大きな人口の塊が、時代を経るに従って社会を大きく変動させるという未来を見通していた。その人たちがリタイアしていく中で、外国人が重要になるということに非常に早く気付いて、我々との接点が多くなるのではないかと思います。人口問題がライフワークだったんですね。
竹内：「団塊の世代」が書かれたのは1976年です。
後藤：今から50年くらい前ですね。
毛受：団塊の世代が2025年に後期高齢者になると。そこで介護の問題も出てくるし、社会保障の問題も大きくなる。
後藤：まさに今起きていることじゃないですか。
原：当時、コンピューターで未来予測していたんですよ。一方で彼がすごいのは1000年、2000年を遡り、歴史小説も書くわけですよ。歴史を全部学んだ上でこの先の未来を見通していた。あれくらいの人はいくらも出ないですね。

協議会は第2ステージに

竹内：堺屋さんがいるから会員になったっていう人もいました。原さんと話して、これからは堺屋さんというキーマンがいるから仲間になってくれた人たちじゃなくて、この領域で命を懸けて自らやっている方々に入ってもらおうと。協議会の第2ステージとして、こういう人はどうですかって原さんに相談して。それが後藤さんです。

後藤：堺屋さんと同じことは絶対にできないから、我々ができることは何かって話し合いましたよね。我々は現場にこだわると。我々は現場で社会課題に取り組んでいる、熱い思いを持っている人たちを知っています。経済界のトップの人たちにはちょっとリーチできないけれども、我々らしくやるしかない、というのが結論でしたね。

竹内：後藤さんには2019年6月の総会で理事になってもらったんですよね。直後にその方針を打ち出しました。

後藤：今では協議会も150社ぐらになってきて、これから300社、いや500社になるのも夢じゃない。いろんな大手企業にも来ていただいて、活発に議論ができる団体になってきたのかなと思っています。もし堺屋さんがご健在でしたら、我々の団体に対してどうおっしゃるでしょうね。

政治問題化＝関心の高まり

原：イタコみたいになってもいいじゃないか（笑）。堺屋さんは僕らの発想を超える人だったから、なかなか予想はできませんけれども、おそらくこの協議会も発展して、外国人がこれだけ日本で大活躍するようになったのを見て「世の中変わったね」と言うでしょうね。十数年前、協議会を立ち上げる前に議論していたときは全然違いました。1990年代から2000年代の不法残留者がたくさんいた時代を引きずっていました。今は普通の企業で外国人が働いているのがようやく当たり前になりました。これからどうしたらいいかという、まず外国人に対する反発をどうするか。たぶん堺屋さんだったら小説で解決してくれたでしょうね。日本の歴史を踏まえて説き起こしてくれたらうらなと思います。

毛受：まさに原さんがおっしゃる通りだと思います。堺屋さんは政府が外国人を正面切って受け入れる前に外国人雇用協議会を作られて、将来ここがものすごく重要になってくると社会に訴えていると思います。今の日本を見て、自分が想定したとおり来日が順調に伸びている、皆さんありがとうと言うでしょう。今、いろいろ問題になっていますが、逆に言うとも今まで社会的な関心が低かったのが政治的なテーマになるほど伸びてきたということです。堺屋さんの歴史的な視点で見ると、それは当然の話です。いろいろな波はこれからもあるだろうけども、日本というのは外国人を受け入れて発展していきたいし、これからも本質は変わらないから皆さん頑張り続けてくださいと、おっしゃるんでしょうね。

原：全くそうですね。摩擦が起きるのは仕方ないんですよね。

多様性と意外性で「楽しい社会」に

竹内：堺屋さんは楽しい社会を目指すべきだ、そのために彼ら（外国人）の力は必要なんだからずっと言っていました。多様性と意外性、社会を面白くするのはその2つだと。堺屋さんは突拍子もないから、思考回路が全然違うから原さんがおっしゃったように我々には分からない。でもとにかく楽しい社会をどうやっ

たら作れるのか、しかも面している社会をどうやったら改革できるのかって今、90歳だったら取り組んでいるでしょうね。

原：戦後の画一的な社会というのが大嫌いでした。工業文明から楽しい時代に移行しなきゃいけないというのが彼のライフワークでした。日本の企業にどんどん外国の人たちが入ってきて、画一的な日本文化にそるえるんじゃなくて新しい文化を持ち込んでもらう。これは素晴らしいことじゃないかと多分受け止めていると思います。日本人と同じように画一的な工業社会の戦士みたいになるなら全く意味がないですよ。竹内さんたちがやっていらっしゃるのはまさにそうだとすると思うんですけど、日本の企業文化にいい影響を与えてくれるような外国の人たち、この人たちをいかに大事にするかが重要だと思います。

毛受：食文化にしても音楽にしてもダンスにしても、若い人っているんな文化をエンジョイしていますよね。例えば米国では移民が自分たちの文化を持ち込んで楽しんでいるけれども、他の民族の人は別に関係ないわけですよ。でも日本は壁を作らずに受け入れて楽しんでいると思うんです。一方で今、外国人に対して排斥的な動きが出ているっていうのは、日本の文化を非常に固定的に考えているということです。本当は日本でもっとおおらかな国で、別の文化を取り込むことで豊かになってきた。我々自身も異文化が入ってきたら当然違和感はあるんだけど、それも楽しい、面白いと思える。ちょっと変わっているけど、まあまあ楽しいことが将来起こりそうだっていう、そういうメンタリティーをもちたいですね。異文化は楽しいものだっていうふうに雰囲気を作っていくか。なんとなく前と違うから嫌だっていうのを乗り越えていかないと、日本は発展していかないと思うんです。

竹内：やはり、堺屋さんの思想を象徴するキーワードは「次世代日本人」です。いわゆるブルーカラーとかホワイトカラーといった枠組みではなく、心から日本が好きで、日本語もしっかりと勉強し、この日本の社会で共に頑張っていきたい。そう願う人たちが活躍できる社会をつくっていくこと。そして、その「次世代日本人」の方々が、楽しく活力のある素晴らしい共生社会を築き上げ、日本がそのモデルとして世界をリードしていく。それこそが、協議会が目指すべき進むべき方向だと思います。初代会長である堺屋さんが灯した「思いのバトン」を絶やさず、次へ次へと繋ぎ続けていくこと。それが、我々外国人雇用協議会の使命ではないでしょうか。

—— インタビュー実施日 2026年1月

つかったものも流れですね。

原：日本社会に溶け込めるようにするためにそういうテストが必要だと考えました。

竹内：日本語能力じゃなくて、日本の社会の常識、社会的常識が分かっているか測れるものを作りたいということでした。あれは堺屋さんの思いですよね。

原：はい、それを受けてみんなでどういうテストにしようかと考えていきました。

後藤：日本に対する理解とか、ビジネスのマナーとか、そういったものを測るための試験を作らうと。画期的ですが早すぎたんですね。まだまだ技人国の数も少なかった時代ですから。今はかなり増えていますすけれども。

原：ヨーロッパの国がそれに近いことをだんだん整備していますよね。フランスだけではなくて。先進的でしたね。最初から理念先行型だったんです（笑）。

後藤：これからもそれでもいいと思います。ビジネスを拡大するというより、会員の方々に最新の情報を提供したり、理念に沿った提言をしたりすると。



排除か同化、二択の日本

毛受：1点だけ、私は今の時代とずれているなど思うことがあります。堺屋さんの主張が、実際の世の中ではそうならないと思うことがあります。堺屋さんは日本というのは、外国人が同化する力が非常に強い国だと言っていました。多分、外国人が少数のときは確かにみんな日本化していくと思います。今は日本に190数カ国の外国人がいて、毎年30

万人が入ってきているわけです。最近はムスリムの人たちが結構入ってきています。日本社会に同化するというのは、本当のムスリムの人から見ると墮落しているように見えてしまう。だから外国人が入ってきて、簡単に日本社会に同化して、みんな日本人みたいになるっていうことではない。外国人たちが様々な文化を作り、それぞれの文化を維持しながら日本社会と調和するっていう時代になってきていると思います。しかし、日本社会は排除するか同化するかという認識しかないんですね。いろんな人がすでに入ってきていて、その人たちは自分たちの社会をつくっていく。日本社会と分断しないようにしっかり受け入れて、彼らが自分たちの文化・宗教を守っていく。そういうものがだんだん積み上がって行って、我々自身も外国人に学んでいかないと。ムスリムについて言うと、世界の人口の4分の1なんですよ。そこで受け入れられないというのはやっぱり問題です。今、円安もあって東アジアよりもっと離れた国からどんどん外国人が来日するようになってきていますよね。日本と文化の違いの大きい人たちがさらに入ってくるときに、日本的な価値観を守りながらどういう形で包摂していくか。どうやったら彼ら自身も日本に来てよかった、貢献したいと思えるようになるか。まだまだチャレンジだなと思います。

原：それこそ堺屋さんがよく言っていた日本の形成過程ですよ。いろんな文化の人たちが入ってきて、統合して。完全に日本人になってください、ではないです。完全に別の社会を作ってしまうでもなく、統合した新しい文化ができる。日本の文化を作り、日本人を作っていく。それがなされてきた。

10年後、20年後のために

竹内：日本にとって都合がいい人を選ぶのではなくて、次世代の日本人と一緒に目指せるような方々を招き入れてやっていくっていうのが協議会として目指していくべき姿です。10年後、20年後の日本社会からありがとうと言ってもらえるように私たちがリードすることが大事のかなと思います。

後藤：何を守らないといけないのか。日本人らしさというのは別に血縁じゃないのかなと思います。堺屋さんはどういう人に来てほしいと思っていたんでしょうか。

竹内：日本で稼がたいとか、日本でちょっと過ごしたいという人じゃなくて。日本が好きで、日本で頑張っていきたいっていう志・意志があるような人たちだと思います。ブルーカラーはだめという考えもなかったと思います。それってすごく先見性があったということです。今、エッセンシャルワーカーと呼びますよね。米国などでは大工さんがポルシェに乗ってくるっていうじゃないですか。それぐらい稼げる。タクシー運転手の給料だって40%アップしている。だからブルーカラー、ホワイトカラーという区別じゃなくて、優秀が優秀じゃないかでもなくて。本当に日本が好きで、日本で努力ができる人。社会と一緒に作っていく仲間になってもらえる人を迎え入れていきたいって堺屋さんはずっと思っていたと思います。

後藤：よく給料が高い人を増やせとか、技術が高い人を持ってこいとか、日本人の血が入っていないといけないといった議論もありますよね。

原：給料は高い人のほうがいいと思いますよ（笑）。ただ、給料は企業の側の問題だと思うんです。安い給料で、日本人が来てくれないから外国人を入れないというような姿勢では、それこそ堺屋さんが言っていた「日本を嫌いになって帰っていく外国人」になってしまいます。

後藤：堺屋さんが最後の情熱を傾けたのが次世代日本人だったんですね。

小説で訴える夢かなわず

原：これで小説を書かないといけないってずっと言っていました。いかに正しい外国人政策を実現するか。小説を書いて世の中の人たちに訴えるしかない。残念ながら、実現しませんでした。

竹内：秘書の方、いつもはすごくレスポンス早いんですが、2018年の12月ぐらいいから全然返事が来なくなったんです。翌年の2月か3月ぐらいに講演会やってほしいっていう話を11月にしに行ったんですが返事がなくて。正月明けぐらいに堺屋さんがちょっと体を壊したって返事がありました。風邪をひいたといったようなニュアンスだったんです。2月、3月の講演会は難しいっていう返信でした。ああそうかって思っていたら亡くなったと……。後藤：この協議会の大黒柱を失ったわけですよね。

「日本嫌い」生む状況を懸念

原：まさにその象徴が赤穂浪士の武林隆重です。中国からの移民の子孫が赤穂浪士という日本の道徳文化の象徴とされたような集団の一人になったわけです。まさに次の世代の日本人になった。そういう外国人の受け入れ方をしないといけない。堺屋さんはこの協議会を立ち上げる前から、外国人政策の話をはじめた頃からずっとそう言っていました。2010年代の初めですから今とは全然環境が違います。こくわずかしか来ていないという時代でしたが、既に技能実習が問題になっていました。日本にせっかくやってきたのに嫌な目に遭って、職場で差別的な扱いをされて日本が大嫌いになって帰っていく人たちがたくさんいると。これほどもったいないことはない、こんなことしたらいけないんだ、というところからこの協議会がスタートしたんです。日本に来て大活躍して日本が大好きになって、帰っていくなり、あるいは次世代の日本人としてずっと活躍する人たちをつくっていくという、そういう受け入れ方に変えていかないといけない。そこが出発なんです。

後藤：協議会の設立に至ったのはどういう経緯だったんですか？

竹内：最初は原さんと私がお会いして、外国

人の規制、変な規制がいろいろありますねと話しました。2014年でした。原さんは規制改革の雄ですからね。民間の法人代表の私これが変だと各所に政策提言などで訴えても、あなたのビジネスのために言っているんでしょって思われてしまう。そうじゃなくて、民間の総意ですって訴えることができる社団法人をつくらうほうがいいという話になりました。私がこれは変だと訴えても、あなたのビジネスのために言っているんでしょって思われてしまう。そうじゃなくて、民間の総意ですって訴える団体をつくったほうがいいという話になりました。そのタイミングで原さんが堺屋さんに話してくれたんですよね。

原：堺屋さんと協議会につながる話を始めたのは第二次安倍政権の頃でした。2012年からです。安倍政権で堺屋さんは参与をやっていたし、僕も規制改革などでいろいろお手伝いをしていて、堺屋さんと官邸などで一緒に話す機会が多かったです。第二次安倍政権の最初の頃、移民の受け入れを検討しようという動きが出ました。その議論は非常に雑でした。人口が減るから、とにかく移民を増やせば人口はこれぐらになりますよといった感じです。

竹内：移民1千万人計画ですね。

原：猛批判を浴びたんですよ。

後藤：どこから？

志もつ企業で協議会結成

原：右からも左からも当時は大反発を受けました。安倍さんを支持している岩盤保守と言われていた人たちが、けしからんと怒ってしまいました。安倍さんはそれで移民の話は一切封印するんです。

ずっと政府が移民政策はとりませんと言いつけているのは、そこが出発でした。それを見ていて堺屋さんと私は、そんなこと言ったら移民を受け入れないわけにはいきませんよねと話していました。むしろ、どうやって外国人を受け入れていくのか、そこをちゃんと考えないといけないんじゃないか。さっき言ったように、安価な労働力として受け入れていじめて帰すようなことは絶対にやってはいけない。活躍してもらえるようにきちんと仕組みを作らなければいけない、新しい外国人の受け入れをやっていくかといけないという議論をしたのが協議会のスタートです。竹内さんとお話しし、同じ志を持っている企業に集まってもらって議論して、人数を増やすという話ばかりになって議論が潰れてしまう。そういうことでこの協議会を創立したんです。最初に堺屋さんが会員集めをやってくれました。いろんな企業に電話をかけて、今の外国人受け入れでは外国人が日本のことを大嫌いになってしまうよと、いろいろな経営者にどんどん声をかけていったんです。

竹内：優秀な人たちに活躍してもらえる社会を作らうということですね。それがホワイトカラーだろうがブルーカラーだろうが関係ない。優秀で日本が好きで、日本で活躍したくて努力できるような人たちが活躍できる社会をみんなで作っていこうっていうのが僕らの理念ですよ。それは堺屋さんが初代会長を引き受けてくれるときから変わっていないです。私たちの根幹です。

早すぎた適性試験

後藤：まだ特定技能もなかった時期ですよ。技能実習に課題がいっぱいある中で、どちらかというと技人国がメインのコミュニティになっていった。JEFAN（外国人就労適性試験）を



歴史への造詣深く

竹内：歴史への造詣の深さは尋常じゃなかった。

毛受：私の書いた「限界国家」という本に巻頭言を書いていただきました。2017年の出版なので今から約10年前です。そこで書かれていたのは、これから人口がものすごく減ってくるけれども、東京に住んでいる日本のリーダーたちは危機感がまだまだ足りない。外国人の定住について対応が非常に不十分で、日本として受け入れをしっかりと考えていく必要がある。外国人たちが日本についてどう思うのか、彼らの視線で考えていく必要があると。強調していたのは外国人、日本人と分けて考えるんじゃなくて、日本の社会に貢献する人、未来に貢献する人を選ぶかということでした。未来志向で貢献する人をどんどん受け入れていく。非常に重要なメッセージ、普遍的なメッセージじゃないかなと思います。

後藤：そもそも歴史的に見て日本人は単一民族の国家ではないですよ。

竹内：堺屋さんから何回も聞いて覚えているのは、江戸初期に明が清に代わる時期に、それが嫌な人たちがどっと亡命みたいな感じで日本に来たそうです。非常に優秀な医者とか、いろんな人たちが日本に来た。その人たちを社会に統合して江戸の素晴らしい文化を花開かせたというお話でした。それが1回目、2回目は明治維新前後。朝鮮半島とか中国大陸から亡命してきて、その人たちの子どもや孫がいるんなことで活躍して大正口マンっていう文化に昇華したと聞きました。

キーワードは「次世代日本人」

毛受：鑑賞がもたらした醤油と味噌が日本食の素になったと言われていますね。それを改良して今があるわけです。京都のお寺も日本の文化だって言うけど、もともと仏教は大陸から渡ってきたものですよ。今日日本にいる我々も、数千年前かもしれないし、数百年前かもしれないし、あるいは数十年前かもしれないけれども、どこかの時点でどこから渡ってきて今いるわけですよ。数千年単位で歴史を考えると、波動的にずっと人々が外国から入ってきて、動きが落ち着いたら非常に同質的な社会になったと。それが何回も繰り返してきたのかもしれないですね。米国は今、多様性があると言われてますが、移動が止まったら日本みたいに同質な社会になるかもしれない。次は日本の人口が減る中で、次の波として新しい人たちが入ってくると。それは数千年くらいで考えると、実は日本が何回も経験していることです。今また新しいフェーズに入ったということではないでしょうか。

後藤：堺屋さんはインタビュー記事で、面白い国になるとか、楽しい社会になると言っていますね。逆に言うとも画一的なのはつまらない。楽しくない。そのあたりを堺屋さんから直接聞いたことはありますか？

竹内：ずっと言っていたのは「次世代日本人」というキーワードです。私の解釈では、中国大陸から、朝鮮半島から、いろんな人たちが移民として日本に来て、その人たちが社会に根付いて、

2代目・3代目が日本を代表するような人間になっていくということです。彼らのいいところを生かして、日本のいいところを学んでもらって、さらにお互いに高め合って次世代の日本人になっていきましようという感覚を堺屋さんはずっと持っているんじゃないかなと思います。

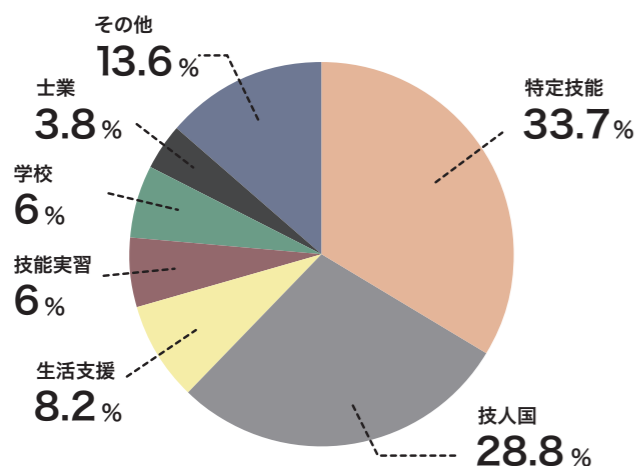


会員社アンケート

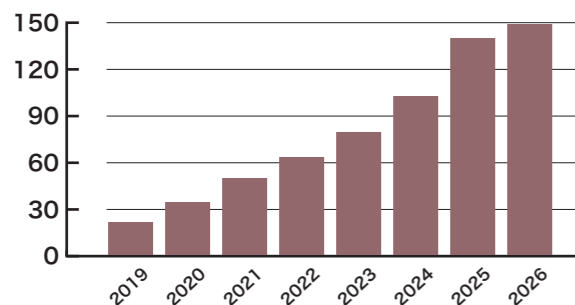
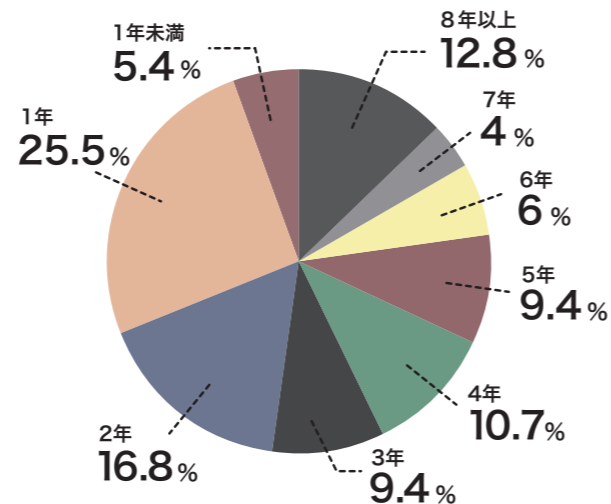
会員社の皆様から、協議会への率直な想いや期待をお聞きました。リアルなご感想とともに、次の10年への声をお届けします。

数字で見る！会員企業について

会員社の主な事業分野



会員社の所属年数

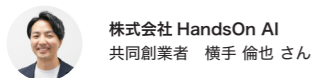


特定技能・技人国をはじめ、生活支援・学校・士業など多様な事業分野の企業が集まっています。コロナ禍にも会員数は着実に増加し、現在では150社を超える企業にご参画いただいています。長年にわたりご支援いただいている会員社も多く、10年の歩みを共にしてくださった皆様に心より感謝申し上げます。

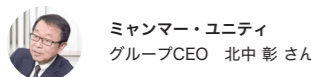
※アンケートは2026年3月時点の情報です。

協議会に期待した点・魅力に感じた点は何でしたか？

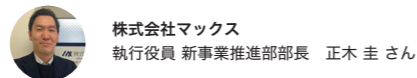
制度改正や実務論点を正確かつタイムリーに把握できる信頼できる情報源である点と、外国人雇用に本気で向き合う事業者同士が知見や課題を率直に共有できる実務志向のコミュニティである点に魅力を感じました。



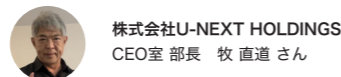
各分野の専門家やエネルギーに溢れた起業家に会えて、大きなインスピレーションを得ることができ、事業のためになりました。



制度理解を深めるとともに、外国人雇用の実務課題を安心して相談できるネットワークを探していました。外国人雇用に真摯に考える企業と知見を共有できる点に魅力を感じました。



自ら政策部会の稼働をはかり、多くの政策提言と定期的な行政機関との意見交換を実現。また我々の政策提言をきっかけに制度改定が実現できた。

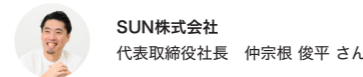


外国人雇用協議会に参画してよかったことは？

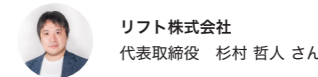
色々な交流の場にお声頂いて新しいお仲間をご紹介頂いたり、弊社のお客様となる企業のご紹介を頂いたりとお助かっています。



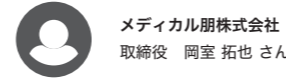
同じ課題を持つ企業とつながれたことで、外国人雇用に関する悩みを一人で抱え込まずに済むようになりました。情報交換の場として非常に心強い存在です。



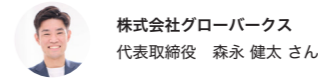
同じ外国人関連領域を専門として取り組む企業様と数多く知り合うことが出来、情報共有や事例共有が出来ることが本当に良かったと感じております。



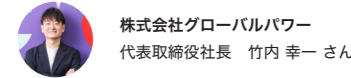
登録支援機関の方々とイベント等で気軽に情報交換ができ、自分の立ち位置が見えてきた



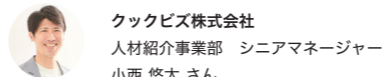
協議会で知り合った同業他社様との提携関係を構築できたこと、業界の大先輩たちとお繋がりになったこと



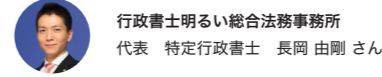
個社ではできない様々なアクション・発信ができるようになった。



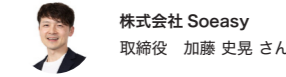
外国人雇用を推進していこうとする共通の想いにより、「他社ではあるけど仲間」という存在をたくさん得ることができた。



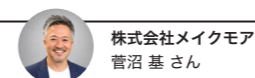
力を合わせられる最高の仲間と出会い、それがビジネスに活用できていること。



イベントに参加させて頂き、ビジネス上の知見を得ることができた。



外国人材の受け入れに注目が集まる中で、より存在感のある組織へと発展していくことを期待しています。私自身も、その一助となれるよう尽力してまいります。



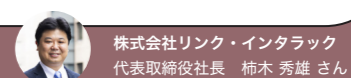
制度整備だけでなく、企業・地域・外国人の相互理解と責任ある共生の仕組みづくりに、引き続きリーダーシップを期待しています。



引き続きアットホームな雰囲気を保ちつつ、発信力の強化に期待します。世の中に現場からの正しい情報が今より必要とされます。



もっと影響力を持つ団体になり、外国人との共生社会の構築と日本社会の発展をリードしていきたいですね



次の10年に向けて、協議会に期待することは？

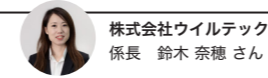
制度対応の情報共有に留まらず、「日本社会で外国人材が活躍し続ける産業構造」をどうつくるかという本質議論を牽引する存在であってほしい。業界全体の質を高めるハブとしての進化を期待しています。



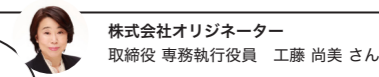
データをそろえて、より外国人との秩序ある共生社会を作ればと思います。私はアジアのビザに関しては専門家なので微力ながらお手伝いができればと思います。



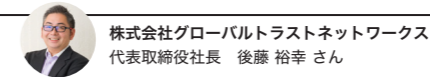
協議会の活動・働きかけを通じて、日本人と外国籍の人々が共存し、相互利益が生まれる社会が実現していくことを期待しています。



設立10周年おめでとうございます。堺屋太一氏と立ち上げメンバーの先見性に深く敬意を表します。会員が志を一つに連携する姿は共生社会の希望です。正念場となる次の10年も熱意を失わず、新たな時代を皆さんとともに微力ながら切り拓いていきたいと思っています。



多文化共生が日本社会の成長や維持に必要な不可欠なことは明らかですが、課題が存在する事も明らかです。それら乗り越えていくための専門集団としての協議会の役割が今後ますます高まると思いますので、期待しています。



正会員 | Regular Member

株式会社アーク・スリー・インターナショナル
株式会社アーバンジャパニーズソサエティ
RSM汐留パートナーズ行政書士法人
行政書士明るい総合法務事務所
アキヤ株式会社
株式会社アクセスネクステージ
株式会社ASIA to JAPAN
社会保険労務士法人 行政書士事務所 アジア経営革新等支援機関
株式会社アスカ
株式会社アステージ
学校法人麻生塾
アデコ株式会社
アドセック株式会社
株式会社穴吹レッジサービス
株式会社アルテジェネシス
株式会社アルフォース・ワン
株式会社アルプスビジネスクリエーション
AN国際法務HR事務所
株式会社イーストブリッジ
ICHIGOICHI CONSULTING, Inc.
株式会社イベント
いろはな株式会社
株式会社インジェスター
株式会社インフィニストン
株式会社ウイルテック
Wo o G W a y 株式会社
エイジアンコミュニティ株式会社
A global harmony株式会社
エース・グローバル・サービス株式会社
株式会社エッグバリュー
株式会社MHRマネジメント
株式会社エンジニアパートナー
株式会社Oyraa
大房行政書士法人
株式会社オールビズチャンネル
株式会社オリジネーター
学校法人電子学園

株式会社KAND
株式会社キャムグローバル
株式会社キャリアアプランニング
株式会社京進
株式会社クオリティ・オブ・ライフ
株式会社クリエ
株式会社クレイブ
株式会社クレディセゾン
弁護士法人Global HR Strategy
株式会社グローバルトラストネットワークス
グローバルパートナーズ株式会社
株式会社グローバルパワー
株式会社GLORY OF BRIDGE
株式会社啓程
株式会社KJ Internacional
株式会社広済堂ビジネスサポート
ゴウエル株式会社
一般社団法人国際人流振興協会
株式会社サーティファイ
サードプレイス・ネットワーク株式会社
SUN株式会社
株式会社三本松茶屋
株式会社ジマス
株式会社祥平館
ジョリー・ロジャー株式会社
白崎謙隆法律事務所・白崎FHR経営労務事務所
株式会社StarHarbor.jp
株式会社スタッフ満足
スマリンビジネスサービス株式会社
株式会社政策工房
zero&one株式会社
Zenken株式会社
株式会社社美
株式会社soeasy
SocioFuture株式会社
株式会社dialog
株式会社ダイブ

TAKUMINOホールディングス株式会社
タブソリューション株式会社
株式会社チェングロウス
地球人. j p株式会社
中央出版株式会社
DXHUB株式会社
株式会社帝京サービス
株式会社デルタマーケティング
株式会社テンス
TOPPANラベルサービス株式会社
豊田プランニング
株式会社成田空港ビジネス
日総工業株式会社
株式会社ニッソーネット
株式会社NINAITE
一般社団法人日本ショッピングセンター協会
パーソルキャリア株式会社
株式会社バック・エックス
バベルメソッド株式会社
株式会社HandsOn AI
株式会社バンパーコネクト
株式会社ビースタイルホールディングス
株式会社ヒューマンラボ
日の丸交通株式会社
株式会社ヒューマニック
ヒューマングローバルタレント株式会社
株式会社ヒューマンパワー
株式会社ファーストシステムコンサルティング
株式会社Funtoco
フォースバレー・コンシェルジュ株式会社
株式会社44-project
BLUE SKY JAPAN株式会社
ポーターズ株式会社
株式会社ポータル
ポータルハウス株式会社
ポールトゥウィン株式会社
株式会社ポリグロトリンク

株式会社BON ZUTTNER
株式会社マイナビ
株式会社マックス
Man to Man株式会社
みながわ行政書士事務所
ミャンマー・ユニティ
株式会社ムルデル
株式会社メイクモア
株式会社明光キャリアパートナーズ
メディカル朋株式会社
MOJOホールディングス株式会社
株式会社MOL CAREER
株式会社和
株式会社USEN WORKING
UTエージェンツ株式会社
学校法人千駄ヶ谷教育学園
淀川中小企業振興協同組合
株式会社YOLO JAPAN
株式会社ライトハウス
RAKUVISA株式会社
リードブレイン行政書士法人
Reeracoen Singapore Pte. Ltd.
株式会社リエイ
株式会社Liquid
株式会社LivCo
リフト株式会社
株式会社リンク・インタラク
レバレッジズオフィスサポート株式会社
Renxa株式会社
ワールドインワーカー株式会社
wagaya Japan株式会社
株式会社ワンストップ・イノベーションHR
株式会社One Terrace

賛助会員 | Associate member

青木あすなる建設株式会社
Win-Winマッチング株式会社
特定非営利活動法人WELgee
学校法人ARC学園

学校法人滋慶学園
Japan Recruiting Partners株式会社
株式会社Dynamic Mynet
戸崎 典子

学校法人トヨタ整備学園
株式会社はあとふるあたご
株式会社HASSIN
株式会社横浜ファーム

ワンダライフ有限責任事業組合

2026年4月末時点の会員一覧

会員募集中

外国人雇用協議会では正会員・賛助会員を随時募集しています。詳細は当協会ホームページよりお問い合わせください。

外国人雇用協議会



行列のできる外国人生活相談所

ますます外国人をサポートできるWEBサイトに成長中。

「行列のできる外国人生活相談所」の公式サイトはこちらから



次世代日本人を作る

当協会の紹介動画がリニューアルしました！ぜひご覧ください



紹介動画の視聴はこちら



SNS更新中

公式FBページ、Xを更新中。最新情報はこちらからご確認ください。

@jaefn.or.jp
@jaefn_official

在留資格勉強会

本年度も「会員社は何名でも何回でも参加無料」の勉強会を開催しています。ぜひご参加ください。

【2026年度開催日】

5月12日、9月8日、11月17日、2月16日



編集後記

日頃より外国人雇用協議会の運営にご協力いただき誠にありがとうございます。外国人雇用協議会はこの5年間でおよそ会員数が2倍となり、10周年を機に新たな局面を迎えつつあります。本記念誌が、外国人雇用協議会の1つの礎となり、フィロソフィーを共有するきっかけとなれば幸いです。本誌を作成するにあたりご協力いただいた皆様は心より感謝申し上げます。

外国人雇用協議会事務局